

また、単なる業務の遂行だけでなく、業務展開のための計画策定や業務の質の維持・向上のための手順書策定や医療放射線監視以外の業務にも研修の成果が生かされている現状も伺える。

本院を受講した研修生は、研修受講で動機付けされ、その後も業務に取り組むための学習を継続していることが伺われる。これら研修修了生は各自治体で他の職員を指導する中堅職員として活躍しており、今後も、フォローアップサービスを提供していきたい。

一方、課題としては、自治体での専門職種の計画的な配置に必ずしも反映されていない現状にあることがあげられる。専門的な業務への職員の配置では、必要な資質を持つ職員を配置することが求められると考えられる。とりわけ指導的立場の職員の計画的な養成とその位置づけが行政の質の高いサービス提供には重要であることから、自治体での人事管理と本研修が何らか形でリンクされることが望ましいと考えられる。また、医療機関への立入検査業務に携わる職員の資質を確認してレベルに応じた研修を本院が支援できるようにすることも課題であると考えられる。良質で安全な医療を提供するために自治体の職員による実効的・機能的な第三者確認が求められている。質の高い立入検査を実現するには医療監視員の資質の向上が不可欠であり、その資質向上のための研修の重要性は全国保健所長会などから従来より指摘されている。しかし、医療監視員向けの体系的な研修システムが確立されていないだけでなく、医療監視員を本院に研修のために派遣する自治体は少ないなど研修の必要性の認識が十分とは言えず、研修の機会が活用されていないのが課題である。

## (10) 疫学統計研修

A版 回答者 2名

Q1. あなたの現在の職務遂行にとって、本研修は役に立っていますか。

たいへん役に立っている 1名 (50%)

役に立っている 1名 (50%)

Q2. 本研修を他の人に勧めたいと思いますか。

強く勧めたい 1名 (50%)

無回答 1名 (50%)

B版 回答者 6名

1. 本研修を受講したのはいつですか。

平成18年度 3名 (50%)

平成19年度 2名 (33%)  
平成20年度 1名 (17%)

2. 本研修を修了したときの年齢を選んでください。

① ~29歳 2名 (33%)  
② 30歳~39歳 4名 (67%)

3. 差し支えなければ、現在の所属機関・部署(科)名をご記入ください。

公設試験研究機関 4名 (67%)  
中央省庁 1名 (33%)

4. 受講生が、本研修で学んだ内容について、現場における業務や調査・研究に

① 大いに活かされていると感じる 3名 (50%)  
② 少し活かされていると感じる 3名 (50%)

5. 現場の業務と関連のある疫学調査へのモチベーションや元気等が

① 研修前より大いに高まったと感じる 3名 (50%)  
② 研修前より少し高まったと感じる 3名 (50%)

6. 受講生が研修で構築した他の受講生とのネットワークについて

① 現場において大いに活かしている 0  
② 現場において少し活かしている 2名 (33%)  
③ どちらともいえない 3名 (50%)  
④ 現場において今のところ活かす機会がなかったようだ 1名 (17%)

7. 本研修の修了後、周囲の同僚や部下等に研修で学んだことを教えたり指導したりしたことはありましたか？

① ある 5名 (83%)  
② ない 1名 (17%)

8. 総合的にみて、本研修を受講してよかったと思えますか？

① よかった 6名 (100%)

9. 本研修の受講を、周りの人に勧めたいと思えますか？

① 勧めたい 6名 (100%)

## 個別意見

- ・このコースが疫学と統計を学ぶきっかけとなり、研究計画の立案か情報収集の際に普段の業務とは違った視点から物事を考えることができるようになったと感じています。また、このコースで一緒に研修を受けた方と研究等の情報交換を行うきっかけになりました。
- ・疫学調査の研究分野だけでなく、最近では、理化学の実験データ解析においても統計的にデータを処理して、分析法を評価することが多くなりましたので、統計学を学ぶのに良い研修であると思いました。
- ・このコースを受講したことが疫学と統計について学ぶきっかけとなり、研究計画の立案か結果の解析の際に、これまでと違った視点から物事を考えることができるようになったと感じています。
- ・研究デザインを考え、データを解析、論文の投稿、また、レフリーへの対応全てに生かされていると考えています。昨年度の実習に参加した時に持っていった自身のテーマは論文化することができました。
- ・疫学調査や統計方法を学んだことで、業務で行ったアンケート調査に活用することができた。

A版、B版とも回答者が少ないが、ほとんどの人が、現在の職務遂行にとって、本研修は役に立ち、本研修で学んだ内容について、現場における業務や調査・研究に活かされ、現場の業務と関連のある疫学調査へのモチベーションや元気等が研修前より高まったと回答している。反面、受講生が研修で構築した他の受講生とのネットワークを活かしていると回答したのは少数で、研修後のネットワーク作りのサポートも検討したい。今後、基本的な講義の時間数を増やすこと、演習に中間発表会を設定すること等により、さらに充実した研修になるよう努めたい。また、受講生のレベルに差があるので、将来的には、受講生のレベルに合わせた基本コース、応用コース等のコース設定も検討したい。

## (11) 研究機能強化のための疫学・衛生科学研修

目標としていた「研究計画を自ら立案し、それを実行できる中堅職員を育てること」は、達成できたと思われる。グラント獲得、欧文論文、和文論文発表、学会発表、キャリアアップに繋がったといった直接的な成果の他、職場で研究計画作りなどの場面で積極性が増したといった間接的成果も見受けられる。

コースの需要に関する質問に対しては、半分の職場で「2～3年に一度派遣したい」との回答だが、もともと派遣してきた職場だけのアンケートなので、一般化はできない。しかし、職場に「研究計画を自ら立案し、それを実行できる中堅職員」が1～2人の職

場が40%とあり、まだまだ少ないこともアンケートから伺われる。ただし、「財政的余裕があれば派遣したい」という回答と共に、参加者が少なかった事に関して「財政的に逼迫している」が半数を超える職場から回答があった点は、留意する必要がある。しかし、参加者が低かった理由の第1位に、コースの認知度が低かったこと（コースの内容を十分に宣伝できていなかったこと）が挙げられていたことは、今後、コースを再開する場合の教訓としたい。

保健所、地衛研の職員を優先し、あまった枠に国立病院や大学からも参加者を募るようになれば、本コースのコンセプトを維持したままの再開も可能ではないだろうか。

## (12) 地域保健支援のための保健情報処理技術研修

### 1. 結果の概要

#### 1) 受講後の状況

受講による情報処理に関する知識・技術レベルの向上については、「本研修受講によって保健情報処理に関する知識が増えた」と回答した者が100%、「本研修受講によって保健情報処理に関する技術が向上した」と回答した者が95.3%と、ほぼ全員が研修受講により知識・技術ともに向上している。また、受講後の職場での業務環境については、「本研修受講前に比べて受講後に情報処理に関わる時間は増えた」と回答した者が53.5%であり、半数を少し超える回答者が職場環境の変化があったことが示された。また、「本研修受講後に自分で保健情報を整理または分析した結果を職場で発表する機会があった」と回答した者が53.5%であり、そのうち、「発表の際に本研修で学んだ内容が活かされた」と回答した者が87%であり、職場において情報処理を行う機会があった者に関しては、何らかの形で研修で学んだことが有効であったことが示された。さらに、「本研修受講後に職場で何らかの保健情報を利用して計画立案をする際に自分の態度が変わった」と回答した者が60.5%であり、そのような機会があったと答えた者のうち72.2%の者がより積極的に保健情報を利用して計画立案に関わるようになっている。

#### 2) 本研修の業務への有用性

本研修の業務への有用性については、「本研修で学んだことが現在の業務に役立っている」と回答した者が95.4%であり、大部分の受講者にとって本研修で学んだことが現在の業務に役立っていることが示された。具体的な内容としては、例えば「インターネットを利用した情報検索・収集を効果的に行えるようになり、周囲にも教えることができた」、「保健情報、統計等に関する基本的な考え方を学べたことが、日常の業務を進めていく上で、役立っている」、「図表作成、プレゼンテーショ